

町政報告会

世代別にしかわ・みらい対話会

2025年10月21日



山形県西川町

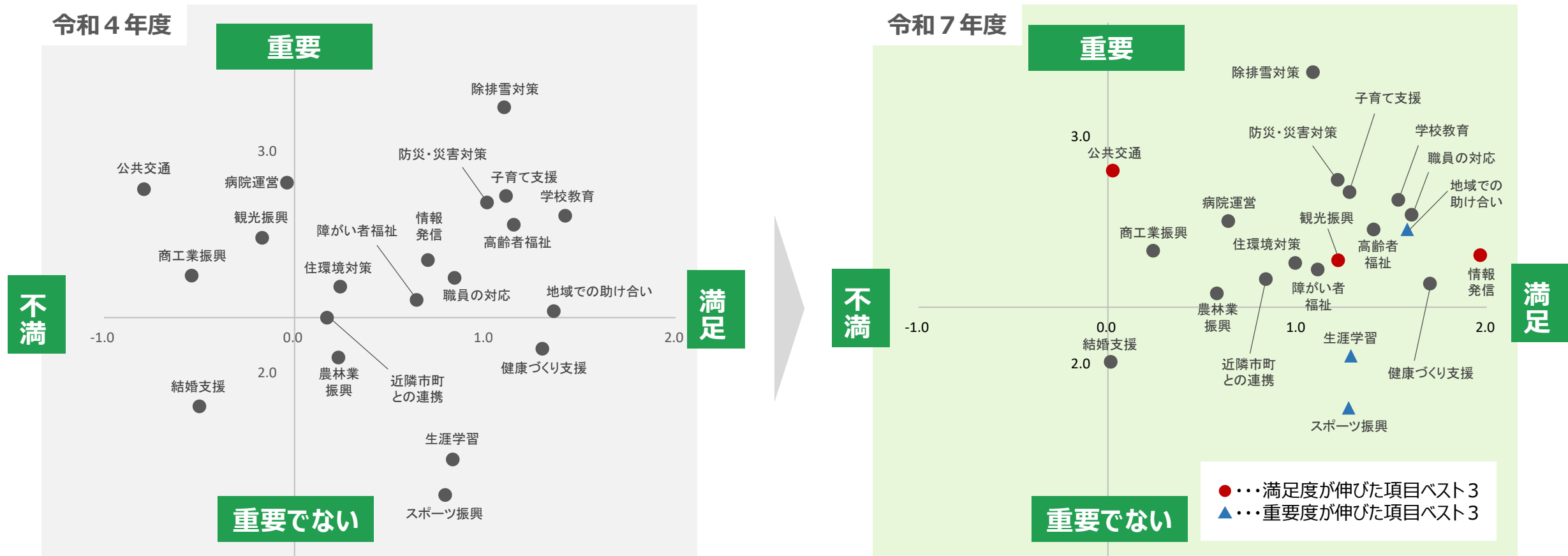
- 
1. 町民アンケート結果
 2. 総合計画の進捗状況
 3. 具体的な施策と成果

- 
1. 町民アンケート結果
 2. 総合計画の進捗状況
 3. 具体的な施策と成果

町民アンケートの結果報告①

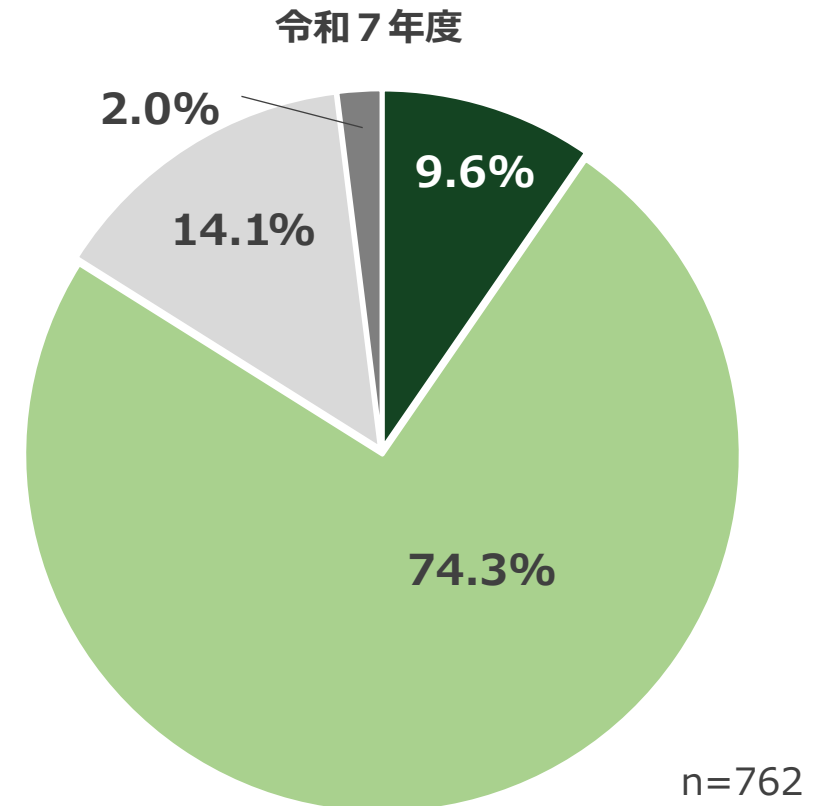
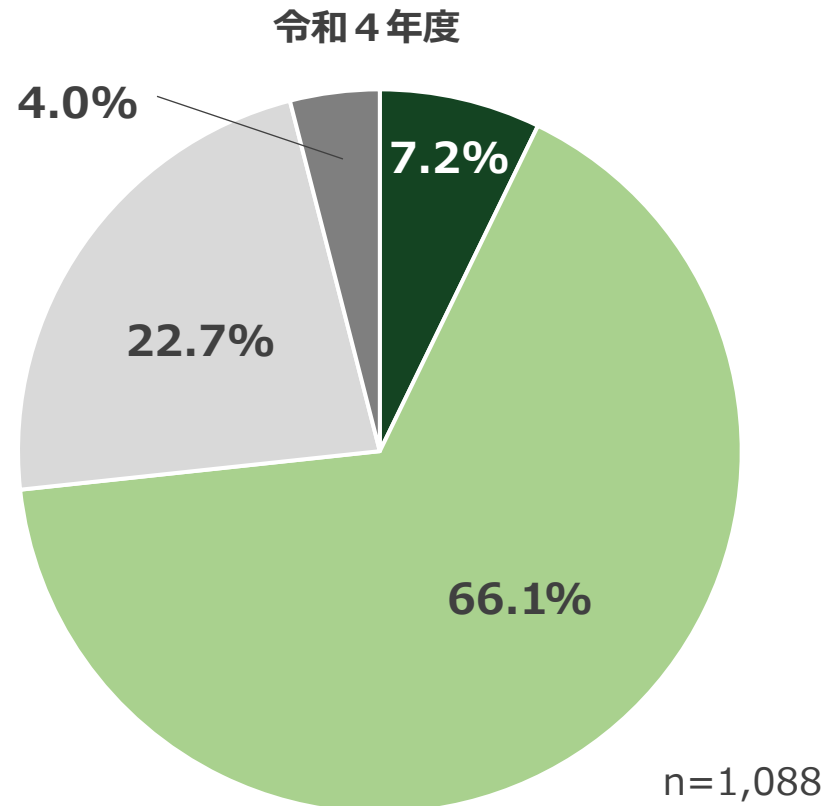
前回調査と比較すると、全体的に点の位置が右に移動して、満足度が高くなっています。**最も満足度が高かったのは「情報発信」**でした。また、「除排雪対策」や「公共交通」など、日々の暮らしに関わる分野は引き続き関心が高くなっています。

■ 施策に対する満足度と重要度の分布図



令和 7 年度調査では、「とても住みやすい」、「ある程度住みやすい」と回答した方の割合が83.9%を占め、**前回調査と比較して、10.6%増加**しました。

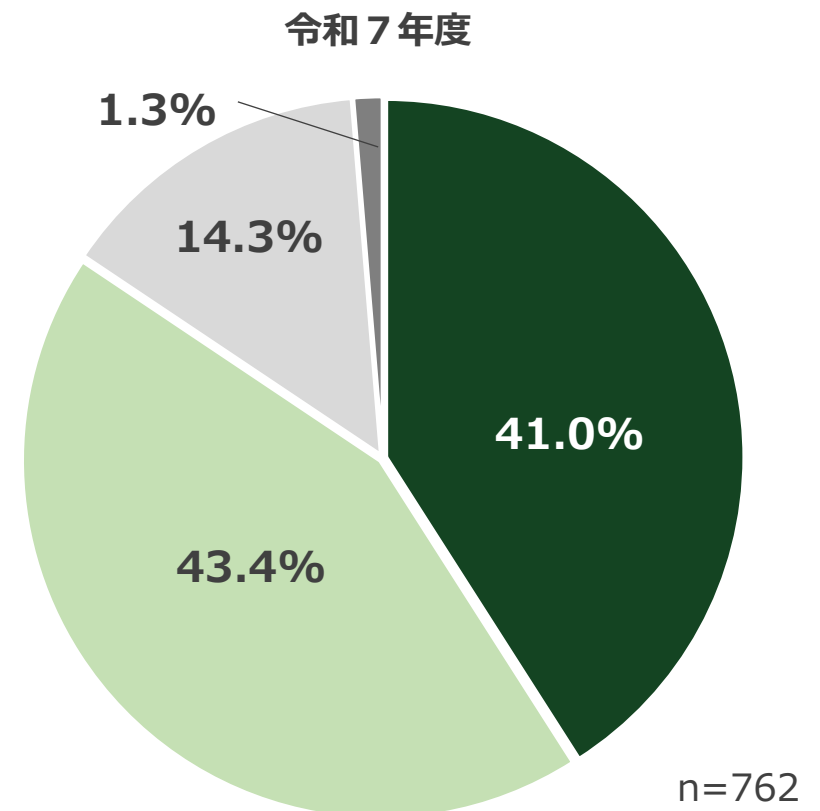
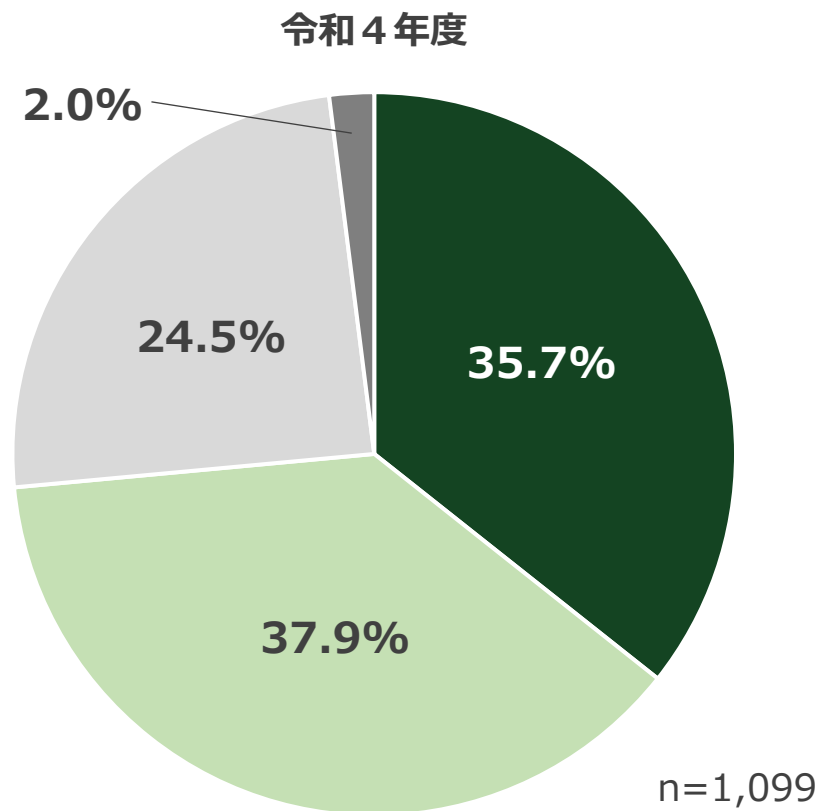
問. 西川町は、住みやすいまちですか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。



とても住みやすい ある程度住みやすい 住みにくい きわめて住みにくい

令和7年度調査では、「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」と回答した方の割合が84.4%を占め、**前回調査と比較して、10.8%増加**しました。

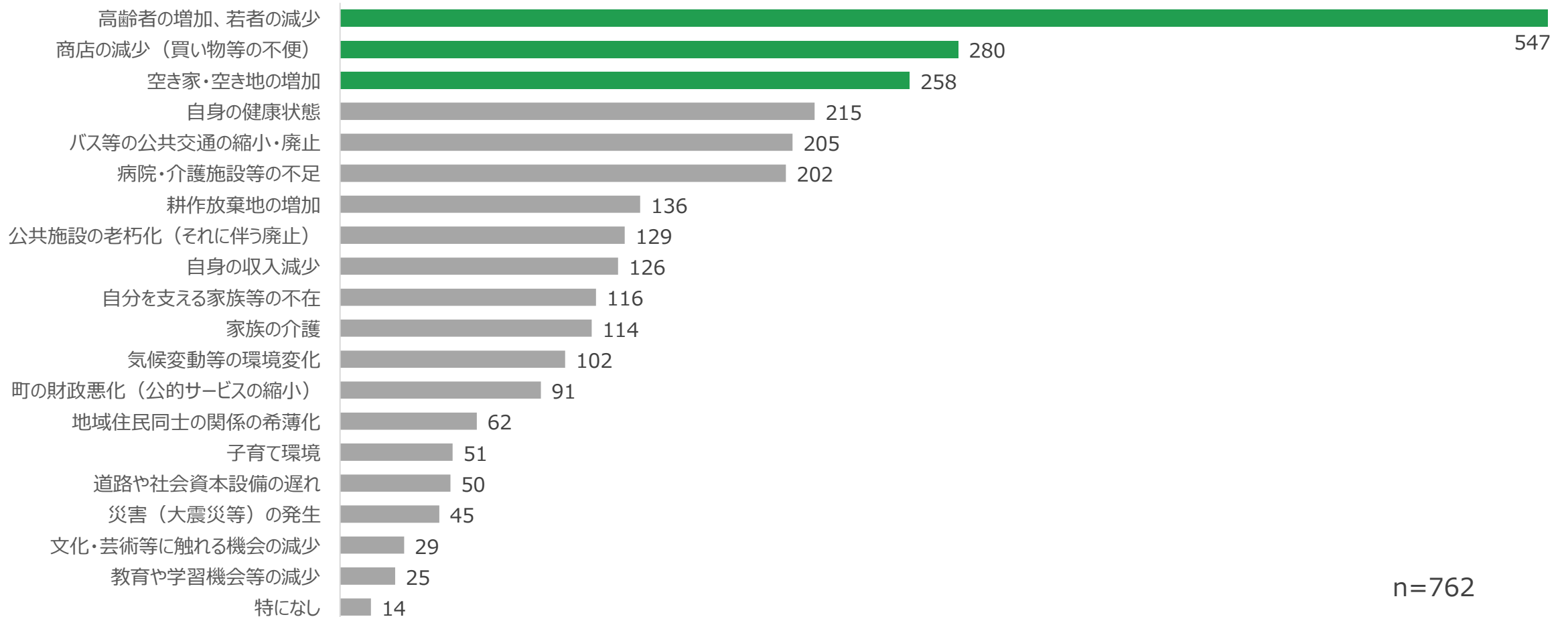
問. 今後も西川町に住み続けたいですか。次の中から1つだけ○をつけてください。



■ ずっと住み続けたい ■ 当分住み続けたい ■ いずれ転居したい ■ すぐに転居したい

5～10年後に不安に感じることにについて、最も多かったのは、「高齢者の増加、若者の減少」が547人、次いで「商店の減少（買い物等の不便）」が280人、「空き家・空き地の増加」が258人でした。

問. 5～10 年先の将来を考えた時に、あなたが不安に感じることは何ですか。次の中から3つまで○をつけてください。



- 
1. 町民アンケート結果
 2. 総合計画の進捗状況
 3. 具体的な施策と成果

まちづくりの将来像・目指す町の姿

8年以内に生産年齢人口増加に向けて、できるだけ早く町民と多様な取組において協働し、
町外の方から共感を持っていただけ町となる

※生産年齢人口…生産活動の中心にいる人口層のことで、15歳から65歳未満の人口。



5つの基本目標

1. 「稼ぐ！」地域の強みと課題解決を融合させた魅力ある産業づくり
2. 「つながる！」外に開かれ、みんなをつないでパートナーシップを大事にする西川町をつくる
3. 「育む！」子育ての希望をかなえ、この地域ならではの学びを保障する西川町をつくる
4. 「支え合う！」町民だれもが安心して豊かな心で生活できる魅力的な西川町をつくる
5. 「持続する！」地方創生2.0の実現に向けて全力を尽くす

第7次西川町総合計画（令和5～12年度）



■ 令和6年度末時点の進捗状況

(項目)	想定を超えて進捗	おおむね順調に進捗	想定より進捗が悪い	測定不能	合計
	進捗基準 100%超	75%～100%	～75%	数値なし	
1. 稼ぐ	4	3	5	2	14
2. つながる	13	2	9	4	28
3. 育む	7	10	3	1	21
4. 支えあう	11	7	6	1	25
5. 持続する	5	2	0	0	7
合計	40	24	23	8	95
割合（測定不能除く）	46.0%	27.6%	26.4%		100%

■ 特に想定を超えて進捗している項目

KPI	策定時（R4）	R5年度末	R6年度末	R12目標
ふるさと納税件数（件/年）	10,820	21,043	46,137	20,000
証明書コンビニ交付率（%）	0	1	17	15
ミニデイサービスを開催する地区の数（地区）	8	20	25	27

都道府県「寛容性」ランキング

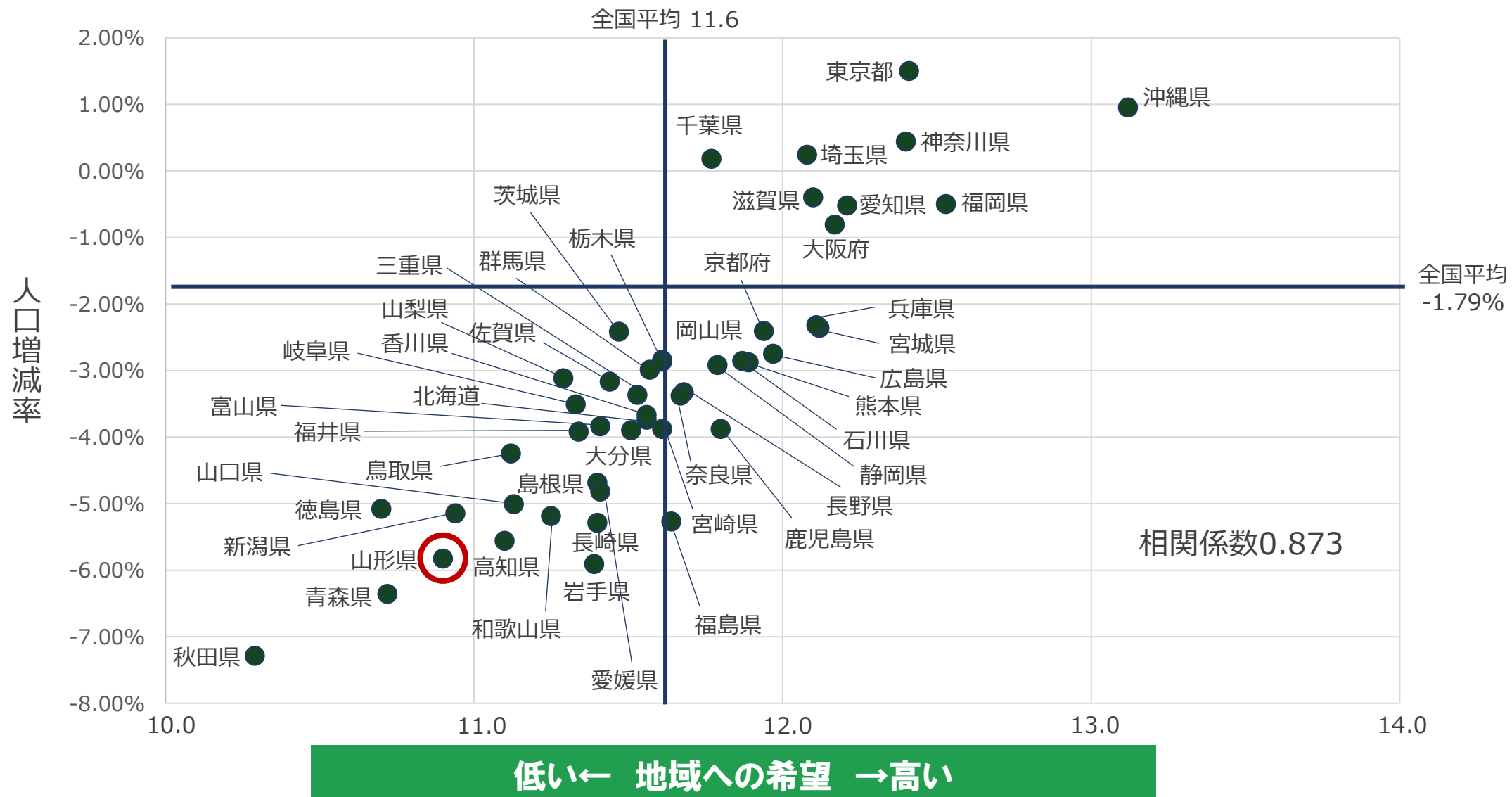
都道府県	寛容性 総合指標	女性の 生き方	家族の あり方	若者信頼	少数派 包摂	個人主義	変化の 受容
東京都	1	1	1	2	1	1	1
神奈川県	2	2	2	1	2	2	2
大阪府	3	3	4	4	4	3	3
千葉県	4	4	3	2	5	4	4
埼玉県	5	7	4	5	6	5	8
}							
青森県	43	42	37	45	41	38	45
山形県	44	34	42	43	45	45	44
富山県	45	45	47	41	44	44	42
秋田県	46	47	44	47	46	46	45
島根県	47	46	46	45	42	47	47

出典「地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論（LIFULL HOME'S総研）」

希望【高】都道府県		
1位	沖縄県	13.12
2位	福岡県	12.53
3位	東京都	12.41
4位	神奈川県	12.40
5位	愛知県	12.21
6位	大阪府	12.17
7位	宮城県	12.12
8位	兵庫県	12.11
9位	滋賀県	12.10
10位	埼玉県	12.08
11位	広島県	11.97

希望【低】都道府県		
37位	岐阜県	11.33
38位	山梨県	11.29
39位	和歌山県	11.25
40位	山口県	11.13
41位	鳥取県	11.12
42位	高知県	11.10
43位	新潟県	10.94
44位	山形県	10.90
45位	青森県	10.72
46位	徳島県	10.70
47位	秋田県	10.29

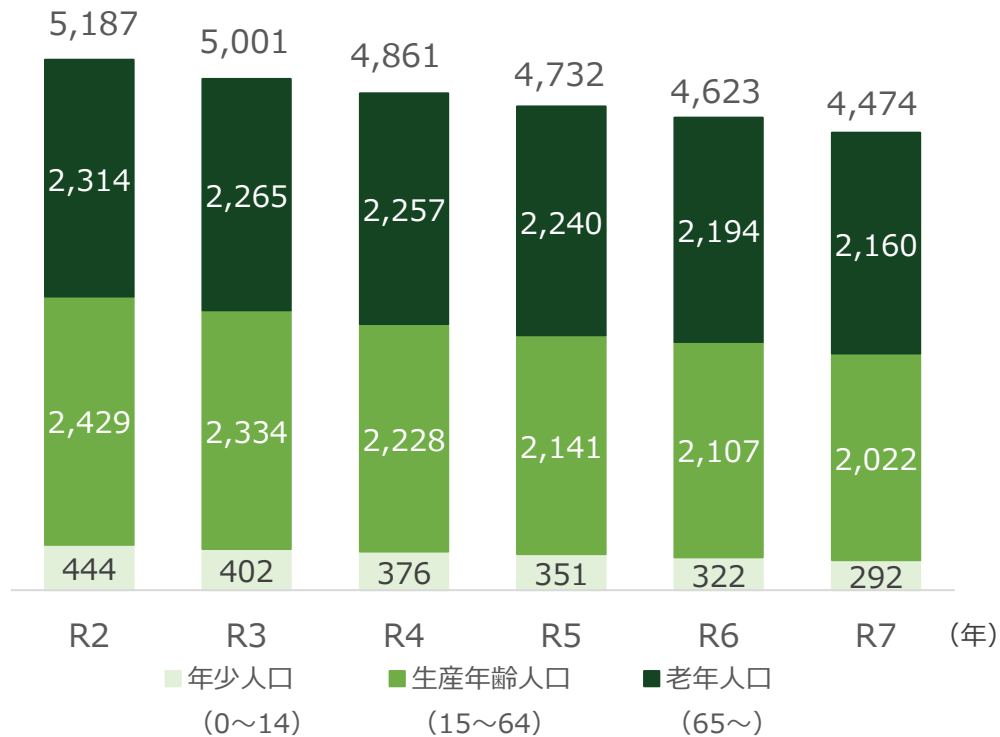
「地域の希望」と人口増減との相関関係



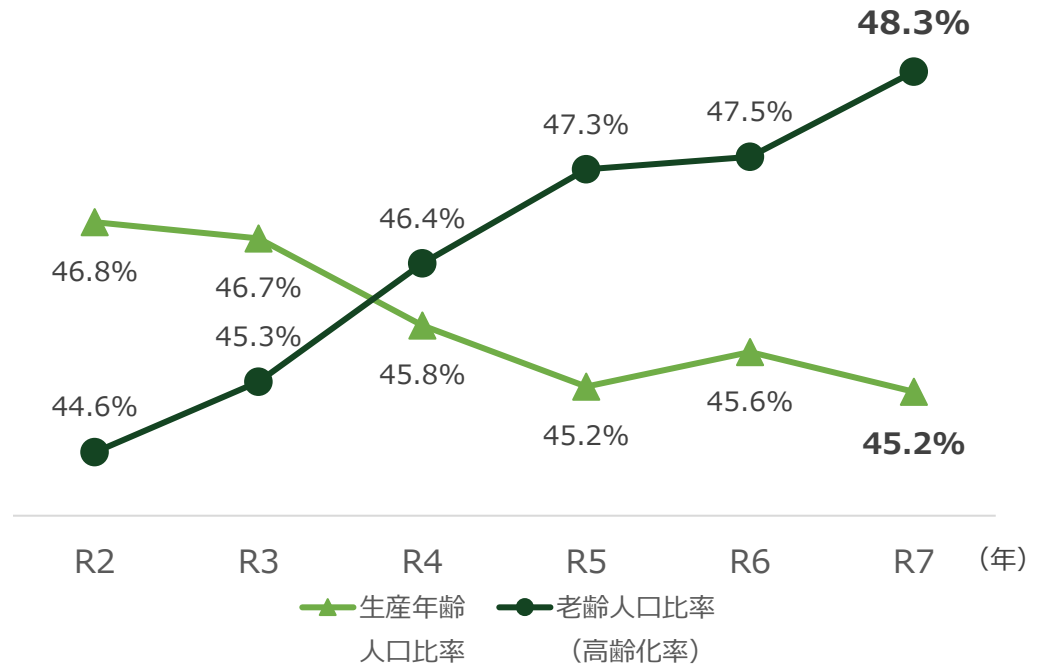
- 
1. 町民アンケート結果
 2. 総合計画の進捗状況
 3. 具体的な施策と成果

- 人口減少対策等を進めてきたものの、人口減少の抑制はできず、令和4年度には5,000人を割り込み、毎年約100人ずつ減少している。
- 令和4年度以降、新たな関係人口創出や移住定住施策を進め、令和5年には**町制史上初めて社会増減±0人を達成**。
- 令和6年には、**生産年齢人口（15～65歳未満）の割合が0.4%増加**。
- 今後も、第7次西川町総合計画に掲げる人口目標（R12年度：4,165人）に向けて、各種取組を進めていく。

■総人口の推移（各年4月1日時点）

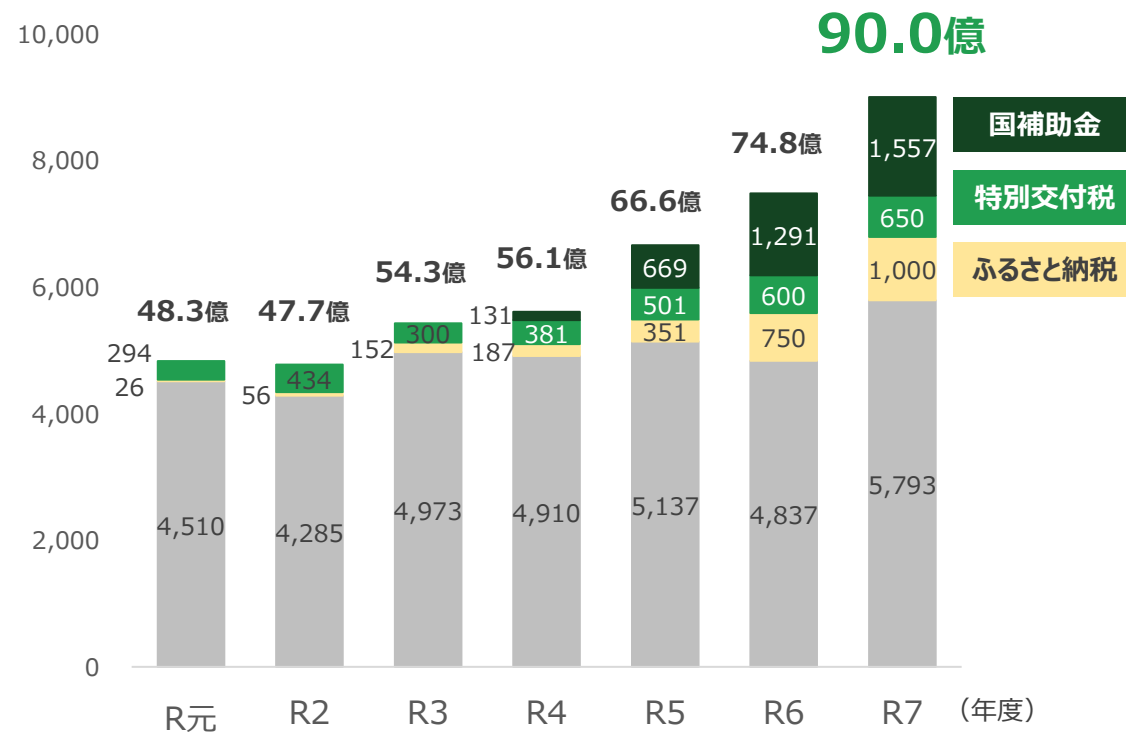


■生産年齢人口比率・老年人口比率の推移



- 一般会計当初予算は、令和4年度まで50億円前後で推移しており、特別会計（病院・上下水道等）も含めて、財源確保が課題であった。
- そのため、財源確保の先進自治体（北海道東川町など）への視察等を通して、国補助金や特別交付税に関する知識・理解を深めた。
- その結果、国補助金や特別交付税の予算額が増加し続け、**令和7年度当初予算額は令和元年度比1.86倍の90億円に到達**。
- 特に、**内閣府の新地方創生交付金（旧・デジ田交付金）の採択額は、全国4位・東北地方1位**となっている。

■当初予算額の推移



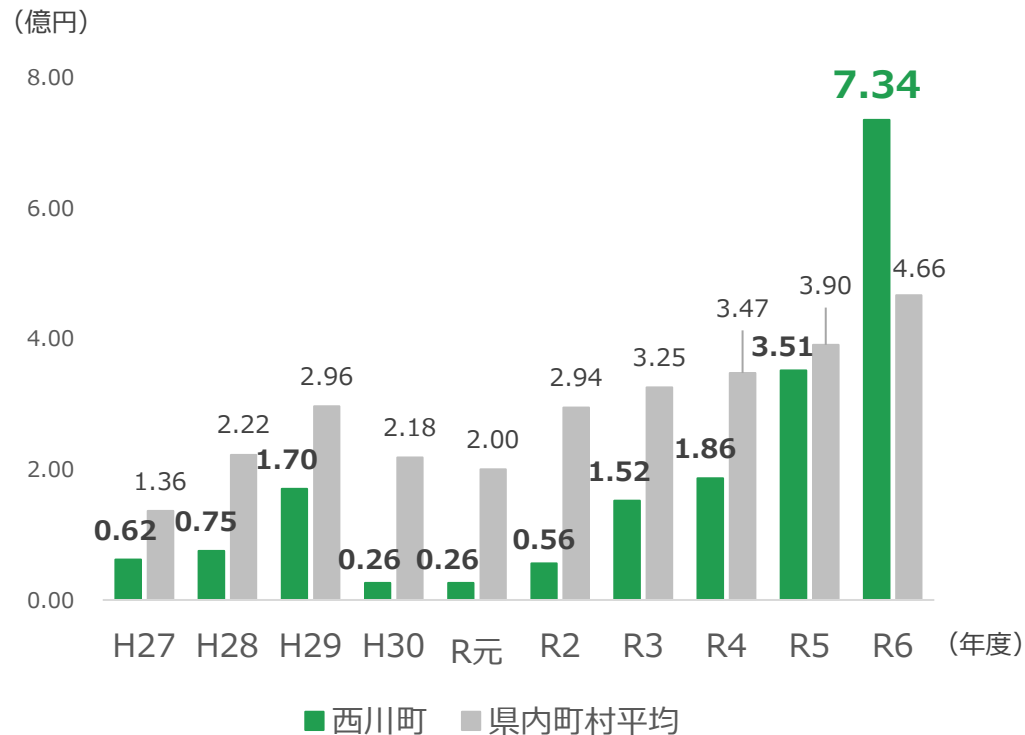
■新地方創生交付金採択額ランキング

順位	全国	東北地方
1	北海道北竜町 (10億6,717万円)	山形県西川町 (7億7,287万円)
2	福岡県福智町 (9億7,715万円)	宮城県仙台市 (6億8,947万円)
3	群馬県みどり市 (8億800万円)	福島県石川町 (6億3,427万円)
4	山形県西川町 (7億7,287万円)	青森県五戸町 (4億2,994万円)
5	北海道二セコ町 (7億7,139万円)	岩手県八幡平市 (4億9万円)

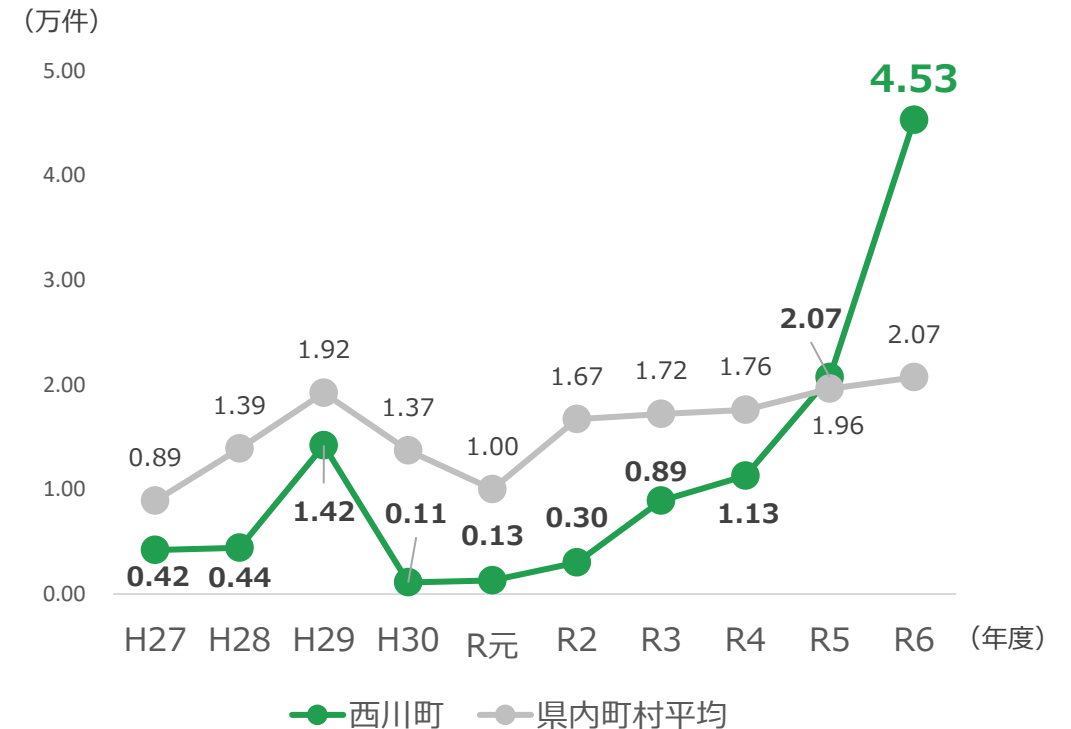
※西川町調べ

- 制度創設（平成20年度）以降、寄附額・寄附件数ともに県内の町平均を大きく下回っていたものの、令和2年度から徐々に増加。
- 寄附額については、令和6年度に県内の町平均約4.66億円を大きく上回る**約7.34億円**に到達。
- 寄附件数については、令和5年度に県内の町平均を上回り、令和6年度に県内の町平均の2倍を超える**約4.53万件**に到達。
- 令和7年度は、**寄附額10億円を目標**とし、町一丸となって寄附活動に取り組んでいる。

■ 寄附額の推移

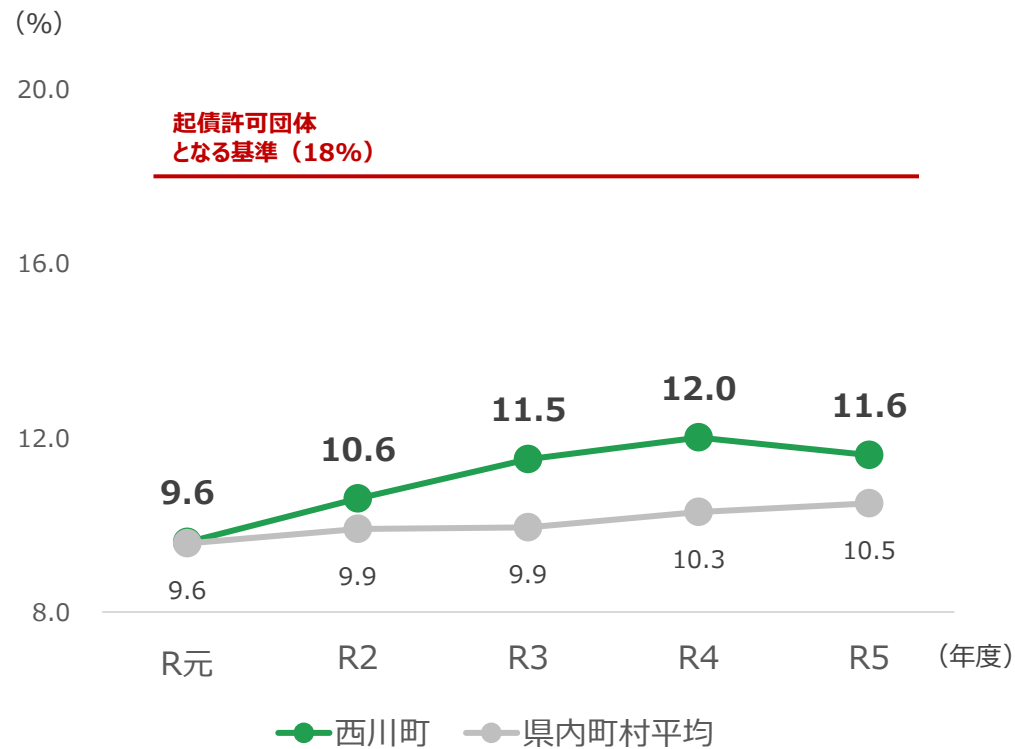


■ 寄附件数の推移

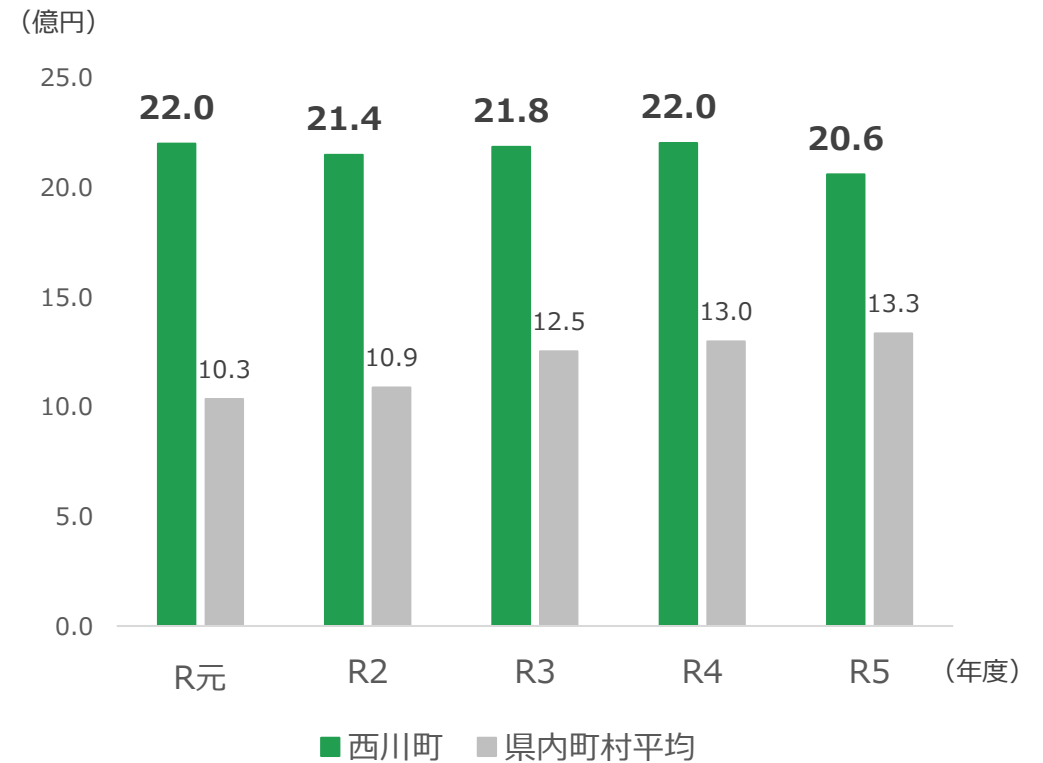


- 実質公債比率**は、県内町村平均よりも高い数値であるものの、**10～12%付近で推移**しており、健全な数値を保っている。
- 財政調整基金・減債基金**は、**県内町村平均より約1.5～2倍で推移**しており、災害や豪雪など有事の際の備えは十分できている状況。
- 令和8年度以降、近年建設した公共施設（TRASや悠々館、カヌーセンター）にかかる過疎債・辺地債の元本償還が控えており、一時的に実質公債比率が高まる見込みである。このことを踏まえて、財政規律をより一層意識しながらの行政運営を進めていく。

■ 実質公債比率の推移

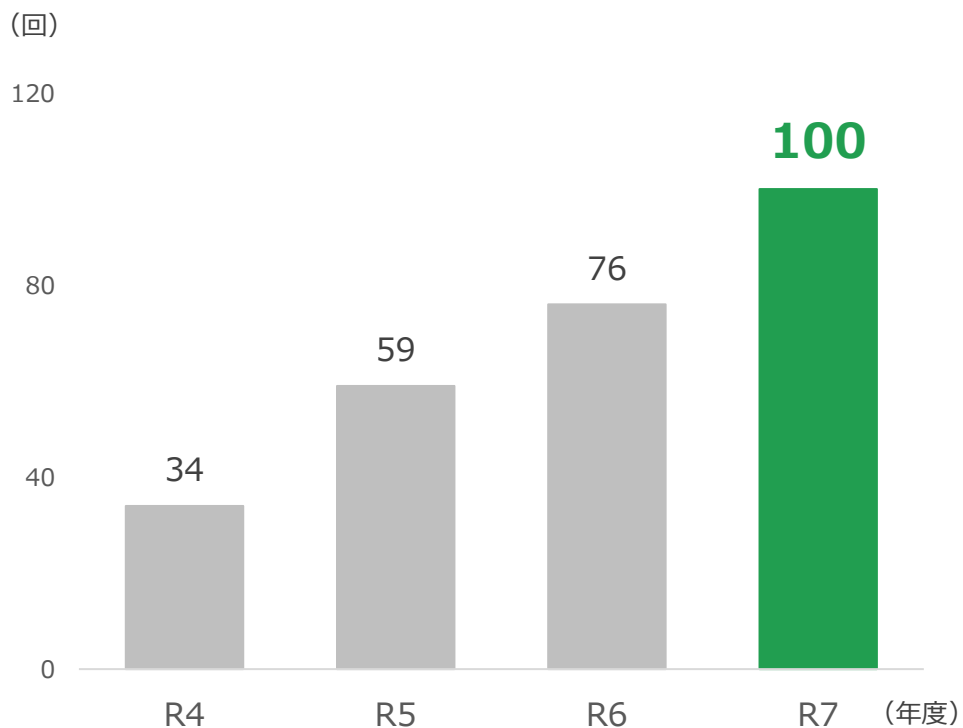


■ 財政調整基金・減債基金の推移



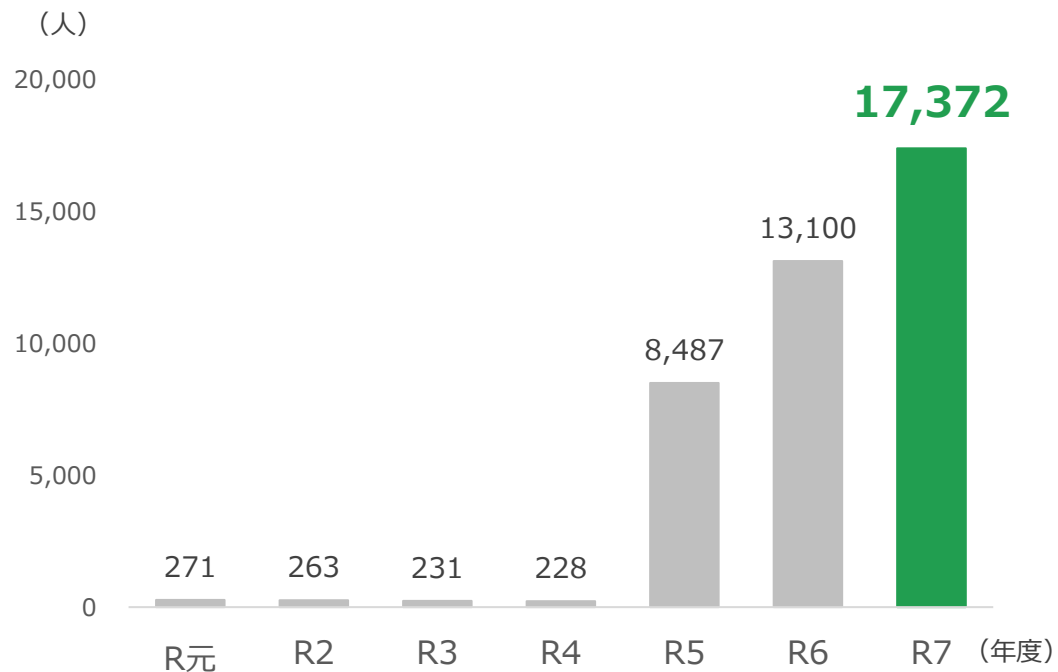
- 町民のニーズや地域課題を的確に把握し、ニーズに基づく政策立案を行うため、令和4年度から「対話会」を開始。
- 令和4年度以降、**延べ269回の対話会を開催し、延べ参加者数は4,000人（概算）**を超えている。
- 農業や高齢者福祉、空き家対策等の政策分野ごとの対話会だけでなく、子育て世帯や建設事業者等の属性に応じた対話会も開催。
- 令和7年度からは、郵便局長を集落支援員（兼任）に委嘱し、**町内4つの郵便局で毎週「ミニ対話会」を実施**している。

■ 対話会開催数の推移



- 新たな観光イベントやデジタル住民票NFTの発行、おたすけ隊の活動、保育園・小学校留学等の関係人口創出に向けた取り組みを推進したことで、関係人口が激増。令和7年10月1日時点の**関係人口は、令和元年度比64.1倍の17,372人**に。
- 全国で初めてデジタル住民票NFTの発行自治体**となり、当初応募倍率はなんと13.4倍。
- おたすけ隊は、延べ2,800日超の活動しており、リピート率24.2%、**おたすけ隊経験者のうち8名が西川町に移住**した。

■西川ファンの推移



※R7年度は、10月1日時点

■西川ファンの内訳（R7.10.1時点）

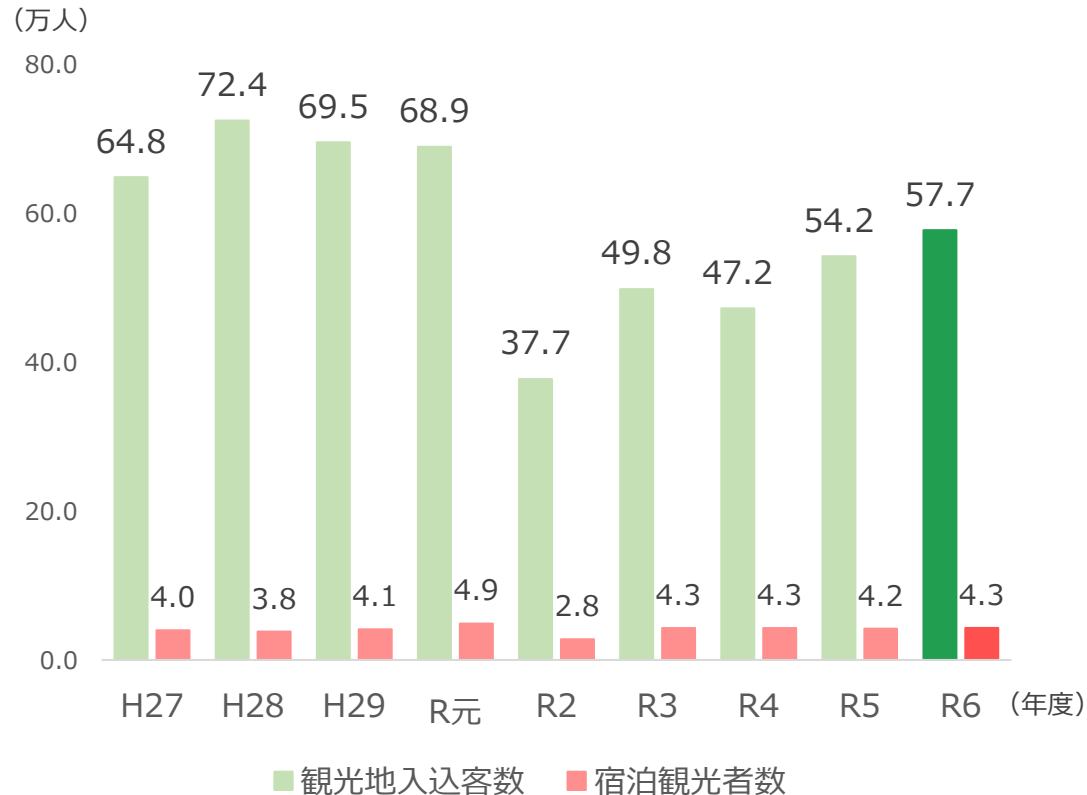
属 性	人 数
各種SNS	13,461人
デジタル住民	2,312人
おたすけ隊（地域おこし協力隊インターン）	164人
保育園・小学校留学、サテライトスクール	264人
その他	1,171人
	17,372人

※ふるさと納税寄附者（74,527人）及び田舎割烹にし川来店者（27,600人）を除く

※この他、関係企業（包括連携協定や企業版ふるさと納税寄附企業等）が125社

- 観光地入込客数は、年間70万人前後で推移していたものの、コロナ禍を経て現在も完全には戻らない状況が続いている
- 宿泊観光客数は、この機会を捉えた施設の高付加価値化改修が功を奏し、同水準の4万人強まで戻ってきている。
- ベストツーリズムビレッジへの選定**や観光庁「**地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり**」の**モデル観光地への採択**を契機に、インバウンド旅行客の受け入れ環境整備なども含めて、西川町への観光地入込客数・宿泊者数の増加を目指していく。

■観光地入込客数・宿泊観光客数（延べ人数）の推移



■インバウンド観光客の受入環境整備に向けて

①ベストツーリズムビレッジへの選定



国連世界観光機関が行うプロジェクトで持続可能な観光地域に与えられる称号「ベストツーリズムビレッジ」に県内初、日本では7番目に選出。
今回の選出で世界に認められる日本有数の観光地としての仲間入りを果たすことに。

②高付加価値なインバウンド観光地づくりのモデル観光地に



雄大な自然と山岳信仰に由来する固有の精神文化として「山形エリア」がモデル観光地に認定。
令和6年度には、山形県を中心に、高付加価値なインバウンドモデル観光地づくりに向けて、マスタープランを策定した。

- 交流人口や関係人口、定住人口などの人口分類に応じて、ソフト・ハード事業を計画的・戦略的に展開。
- 令和6年度以降にオープンした**新たな施設の利用者は、延べ3.1万人（TRAS1.5万人、カヌーセンター1万人、悠々館0.6万人）**！
- 令和6年7月に開始した「お試し暮らし住宅」（2,000円/日）は、保育園留学利用者などを中心に延べ580人が活用。
- 今後、総務省の「ふるさと住民制度」創設を踏まえて、二地域居住人口向けの取り組みも進めていく。



- 首都圏・仙台圏の若者・リッチ層をターゲットに、関係人口創出のための新たな観光イベントを次々に展開してきた。
- 内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金（現・新地方創生交付金）を活用するため、町民や地域、関係人口等を巻き込む企画を考案。
- 町民や関係人口は参加者としてだけでなく、運営スタッフとしても活躍いただき、**寛容性の高い地域の実現に寄与**いただいている。
- これまで開催した**イベントには、延べ1.7万人が参加**し、西川町ならではの観光イベントとして認知度が高まってきている。



▲ONSENガストロノミー



▲SEA TO SUMMIT



▲月山和牛三酒まつり



▲にしかわ夏祭り

■各イベントの延べ参加者数（R6年度末集計）

イベント名	延べ参加者数
ONSENガストロノミー（R5～）	653人
AI謎解き観光（R5～）	8,736人
SEA TO SUMMIT（R5～）	391人
月山和牛三酒まつり（R5～）	2,700人
にしかわ夏祭り（R6～）	5,000人
17,480人	

- 保育園留学は、町外の保育園児を持つご家族を、にしかわ保育園の「一時保育」の仕組みを利用して2週間まで受け入れるもの。
- 園児が保育園にいる間、両親はTRASでテレワークを行うなど、西川町で仕事をしながら暮らし体験ができる。
- 令和5年度から開始して以降、これまで**述べ37家族・55人が利用**。1家族は、町内に空き家を購入し二地域居住を行っている。
- 令和7年度からは、小学校留学も開始し、5家族18人を受け入れる予定**。



▲にしかわ保育園児と留学園児と一緒に活動



保育園留学だより



R6. 9. 27 (金)
にしかわ保育園

昨年度から始まった保育園留学。どんな子が来てくれるのかなとドキドキのスタートでしたが、昨年度は5組、今年度はすでに9組のご家族が、西川町の暮らしと園生活を体験してくれています。初めは緊張している子も、少しずつにしかわ保育園の生活に慣れ、西川町の豊かな自然の中で自分自身をおもいきり開放し、のびのびと過ごしている姿が見られます。クラスの子もたちにとっても、新しいお友だちが来てくれることが嬉しいようで、優しく声をかけてくれたり、一緒に遊んで楽しい思い出をたくさん作っています。保護者の方の感想と合わせてご紹介いたします。



おくだになさちゃん
☆大阪☆

保護者の方より
テレビ電話で嬉しそうにハバにオタマジャクシやカエル、虫のことを報告していました。普段、全然生き物に触れさせてあげていないと実感しました。大阪にいるよりテンションが高く、楽しそうです。



たきくん

田んぼに行って初めてオタマジャクシをつかまえたよ！園庭での泥んこ遊びも楽しかったよ



テテくん

オーストラリアから来たよ！体を動かすのが大好き！柱のぼりが得意だよ



あおきそうた

けん玉教室、かっこいい、バスケットたくさん汗を流しました。寝る前まで、今日の楽しかったことを話してくれて、充実した一日を過ごしているようで良かったです。



あんじまちゃん

プールやお遊戯室でたくさん体を動かした後は、給食で毎日ご飯をおかわりして食べたよ



いわもとしゅあんちゃん

プールが大好きで毎日いっぱい遊んだよ！仲良しのお友だちもできたんだよ



しんじくん

虫、川、山、求めていた自然があり、周りを気にせず自然の中で思い切り遊ばせられる環境にとても感動しました。大人も癒えて

▲不定期で保育園留学だよりを発行

- 町役場だけでなく、任意団体のソフトパワーを活用し、住民主体のまちづくり活動を推進するもの。
- 地域の課題解決や魅力向上等に資する事業を行う町内の任意団体に対して、**最大25万円を補助金として交付**する。
- 令和6年度からは、65歳以上の町民を対象とした「いきいき健幸活動補助金」制度も拡充。
- 令和4年度の制度創設以降、**延べ36団体（うち「いきいき健幸活動補助金」は7団体）の活動を支援**。



■各年度の採択件数、主な事業

年度	採択件数	主な事業
R4	11	・大井沢まるそば提供に向けた準備事業 ・屋台出店、縁日開催 ・「雪旅籠の灯り」の花火打ち上げ 等
R5	10	・西川きれいにし隊事業 ・西川町を花いっぱいにしようプロジェクト ・ダンスフェス「あおぞら舞踏会」 等
R6	7(4)	・スポーツフェスティバルinにしかわ ・月山なんばこらベルリニューアル ・ゲートボール協会活動環境整備 等
R7	8(3)	・登山道「清川道」の整備 ・いきいき健幸事業 ・大井沢の自然を生かした健康茶販売 等

※カッコ内は、「いきいき健幸活動補助金」の団体数

- 移住希望者から住宅に関するアンケートを行ったところ、除雪作業を心配する声が多いことが判明した。そのため、単身・家族世帯ともに、**除雪作業が軽減される住宅を新たに3棟整備**。若者向け住宅1棟は、サブリース方式により町の初期投資0円を実現。
- コーポ睦合については、令和7～8年度にかけて屋上防水及び外壁工事を施し、入居者の安全安心な暮らしを確保していく。
- 令和7年10月1日時点で、**町営住宅全体（131戸）の入居率は、91.6%**に到達している。

■子育て応援住宅 2棟



各部屋3LDKの家族向け住宅（みどり住宅G・H棟）。みどり住宅（一部除く）は、同居する子どもの人数に応じて、最大1万円を家賃から控除。令和6年2月に入居を開始、9月に満室！

■若者向け住宅 1棟



積水ハウスの賃貸住宅「Sha Maison（シャームゾン）」。各部屋1LDKで、一人暮らしだけでなく、夫婦で入居することも可能。令和6年5月に入居を開始し、8月には満室に。

■コーポ睦合改修工事



定期点検及びコーポ睦合町内会からの要望を受けて、外壁・バルコニーの補修・舗装や屋上防水工事、全階段への手すりの設置を行う。

- 西川町では、調理師による手作りの給食を提供しており、地元産食材や生徒が育てた野菜を積極的に取り入れるなど、食育にも力を入れている。
- 学校では、全児童と先生、調理師と一緒に食事をしているほか、準備・片付けも全員で行うことで、協力や感謝の心を育む機会をつくっている。
- 県内の小中学校において、給食費無償化が進んでいる中、西川町においても保護者の負担軽減のために、**令和6年度から保育園から中学校までの給食費の完全無償化を実現。**



出典：キッチンイクHP

区分	負担額
保育園	290円/食 → 無償化
小学校	330円/食 → 無償化
中学校	390円/食 → 無償化

- 保育園のお遊戯室は、エアコンがないことから夏場の活用を控えていた。また、園児の送迎をする親・祖父母からは、「子どもを抱きかかえたまま、園内に入れるようにしてほしい」、「入口の近くに駐車したい」との要望をいただいていた。
- 園児の活動環境改善や、保育園留学園児の受け入れ環境の強化のため、要望のあった設備等について、段階的に改修工事を実施。
- 今後も、利用者ニーズの把握をしながら、保育園の環境整備を進めていく。

■ お遊戯室へのエアコン設置



▲令和6年8月に整備完了

■ 玄関の自動開閉・オートロック設備の設置



▲令和7年9月に整備完了

■ 保育園入口・送迎用停車スペースの確保（5台）



▲令和7年9月に整備完了

- 教育にかかる費用を支援するため、町民限定の教育ローン「帰ってきてけローン」を発売。
- 在学中に返済した利子は、1年ごとに補助金としてお支払い。卒業後は、西川町に居住・就業していること等を条件に、返済した元金・利子を1年ごとに補助金としてお支払い。原則10年の居住・就業で、元本・利子全額を補助するもの。
- 令和5年度の**制度創設以降、21名が活用**している。

西川町民限定
短大、大学、専門学校等に
在学期間中の学生を持つ保護者様必見!!!

帰ってきてけローン

学生の皆さんが西川町に
帰ってきてほしいという願いを込めて!!

低金利の町民限定の教育ローン「帰ってきてけローン」を発売!

最大 500 万円
(山形銀行寒河江中央支店・きらやか銀行寒河江支店・
山形信用金庫全店・さがえ西村山農業協同組合西川支所)

卒業後西川町に帰ってきて10年間住み続ければ、
「帰ってきてけローン」の元金・利子を**全額補助**します。(実質免除)

西川町の本気!
こどもへの投資です
ぜひご利用下さい!

町長 菅野大志

お問い合わせ: 西川町教育委員会まなぶ課 (0237-74-2114)
mail: kyoiku@town.nishikawa.yamagata.jp

■町・町民・金融機関それぞれのメリット

西川町

◎奨学金より事務負担減、若者とのつながり ▲財源確保

町 民

◎奨学金・教育ローン選択、Uターン者軽減

金融機関

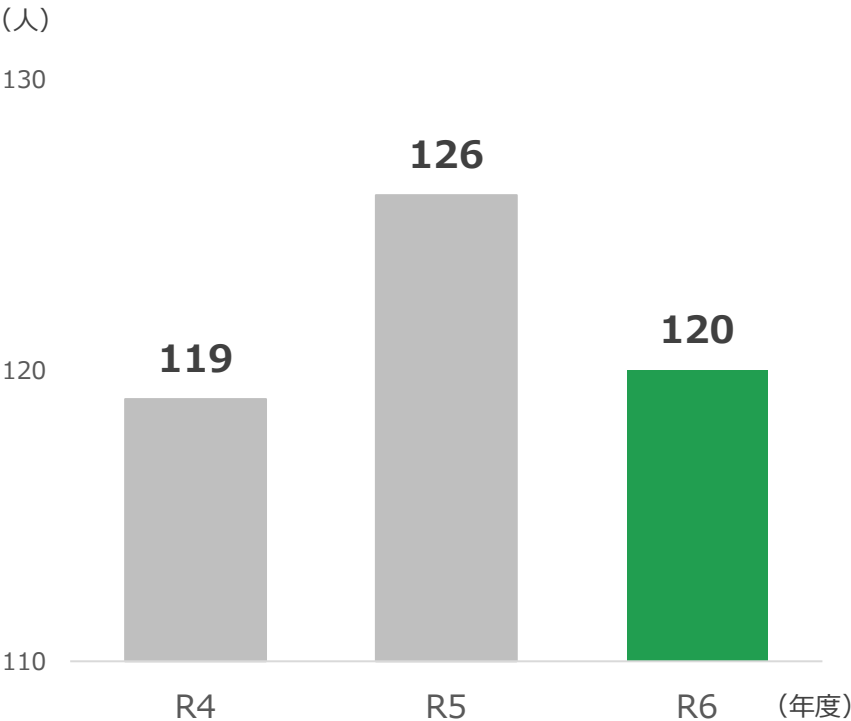
◎信用リスク軽減、地域活性化



◀山形銀行、きらやか銀行、さがえ西村山農業協同組合、
山形信用金庫と連携した取り組み

- 通学等就学に要する保護者負担の軽減と定住促進のため、**高校生等の保護者を対象に生徒1人につき10万円を支援**するもの。
- 申請に併せて、高校生向けのアンケートを実施し、高校生とのつながり強化や若者定住、Uターン就職支援等の政策立案に生かしている。
- 令和6年度には、生徒120名の保護者に対して、就学支援金を支給。
- また、高校生とのつながりを保つため、高校生が町の課題を解決するビジネスを考える「高校生ソーシャルイノベーションコンテスト」を開催している。

■ 支援金支給生徒数の推移



■ 高校生ソーシャルイノベーションコンテスト

令和7年度は、町内外の高校生3チーム7名が参加。

チーム名	ビジネスアイデア
寒高2年生	あなたに寄りそうどこでもボタン
ソラとニコ	観光以上・生活未満から始まる関係人口ビジネス
純粹紳士ラガーマン	にぎわう西川町ヘッダーの提案



▲プレゼンに向けた準備の様子



▲最優秀賞に輝いた「寒高2年生」

- 災害時における情報伝達手段確立・位置情報の把握や、平時における情報発信ツールの獲得、アンケートを通じた町民ニーズの効率的な把握等を目的として、全世帯にタブレット（通称「つながるくん」）を配備。その**配布率は99.9%を達成**した。
- 令和7年度上半期は、389回（約65回/月）を配信**。一部の地区では、イベントやおくやみ情報等を「地区別配信」として行っている
- また、**電子クーポン券「つながるクーポン」を発行**し、その**使用率は、紙の商品券（90%弱）よりも高い95.2%を達成**。

■ タブレット「つながるくん」の目的

- ① 災害時における情報伝達の確立と位置情報の把握
- ② 平時における情報伝達の確立
- ③ 地域を超えた活動紹介による相互理解を深め、寛容性の高い地域をつくる
- ④ アンケートを通じて効率的に町民の考えを把握し政策に反映
- ⑤ 地域循環するための仕組みづくりを進める基盤とする



▲つながるくん



▲タブレット操作説明会の様子

■ つながるクーポンの発行

職員負担

100時間

▶ 10時間

使用率

紙の商品券
90%弱

1回目

▶ 95.2%

2回目

▶ 94.1%



▲町長も初期設定のサポートに町内を自転車で巡回



▲移動販売事業者がタブレットの操作をサポート

- 令和6年2月、町と西川町建設クラブとで、**暖冬対策や建設工事の工期柔軟化に関する覚書を締結**。
- 令和6年4月から時間外労働の上限規制が建設業に適用されることや、西川町が全国有数の豪雪地帯であることを踏まえ、「債務負担行為」を活用し、建設工事の工期を年度末にこだわらず、柔軟に発注を行い、工事の平準化を図ることとした。
- 覚書締結以降、**12件の契約について債務負担行為を設定**した。

■ 建設クラブとの覚書を締結



- 建設業における除雪作業員の人員確保に向け、建設クラブに対する暖冬時の最低補償を設ける。
- 「債務負担行為」を活用した工期の柔軟性を図る。
- 定期的な対話会を開催する。

■ 発注工事の柔軟化の内容

国補助金あり
過疎債あり



- 当初予算で対応
- 工期はできるだけ柔軟に

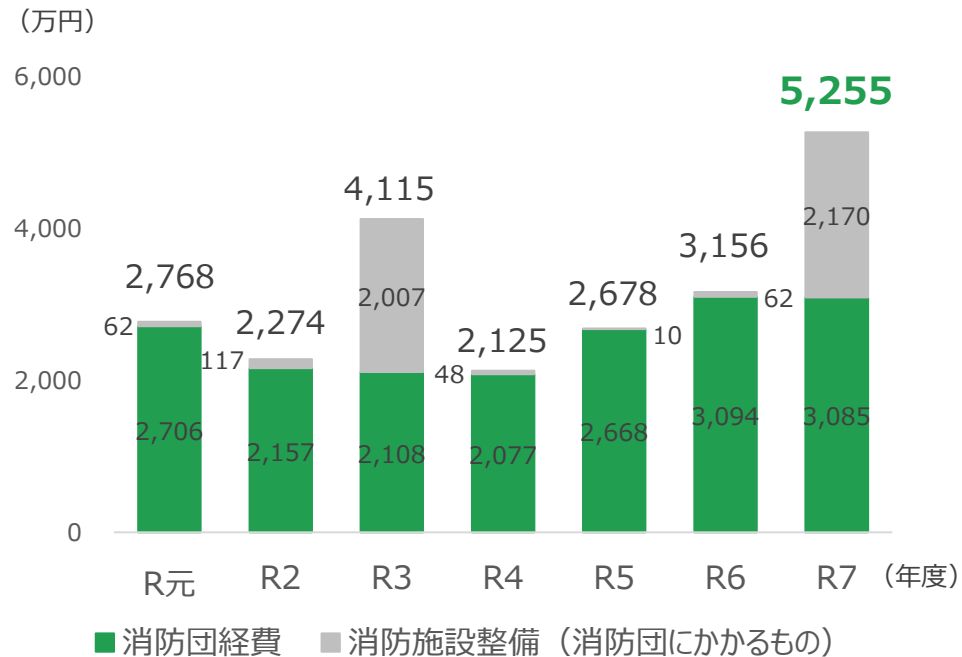
国補助金なし
過疎債なし



- 前年度発注（債務負担行為）
- 2月発注、翌年夏・秋完成
- 暖冬対策（冬期間工事）

- 消防団は、地域防災力の中核とし重要な役割を担っているが、近年、消防団員の減少と平均年齢の上昇が進み、地域の安全・安心を確保するうえで大きな課題となっている。
- これを受け、消防団員の処遇改善のため、**予算を拡充し、消防団報酬の増額や消防団活動費負担金の新設を行った。**
- また、これまで報酬・手当を消防団各部に支給していた方式を団員に直接支払う方式に変更した。

■ 消防団関係予算の推移



※消防施設整備（消防団にかかるもの）の主な経費
 R3年度・・・睦合ポンプ庫新設工事
 R7年度・・・大井沢中村積載車の更新、入間ポンプ庫移設工事

■ 処遇改善の内容

① 消防団報酬・手当の増額

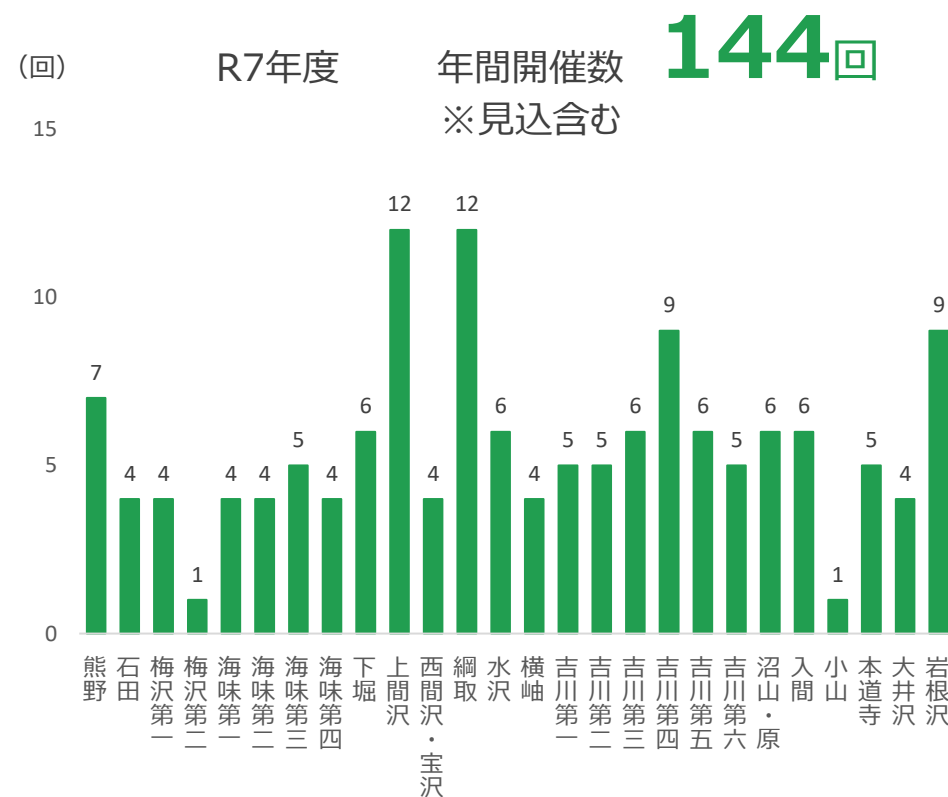
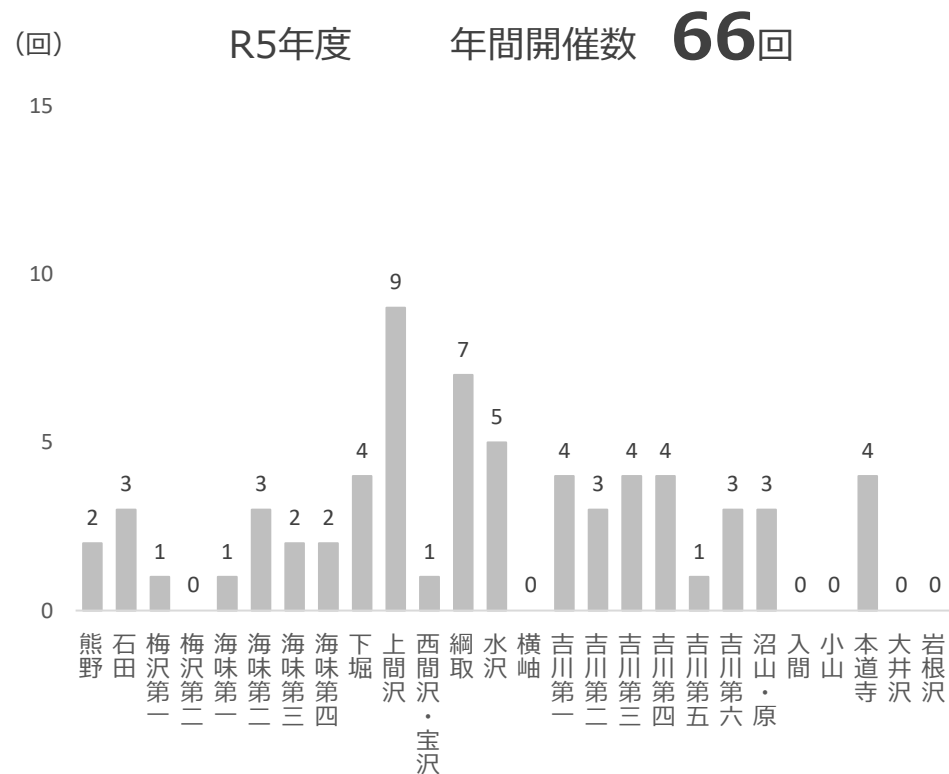
- ・団員報酬を普通交付税措置基準まで増額
（団員 16,000円→36,500円）
- ・**災害での出動手当を1,200円から大幅増加**
4時間以内で4,000円、8時間以内で8,000円に！
- ・**警戒、訓練にあたる場合の出動手当を新設**
4時間以内で2,000円、8時間以内で4,000円に！

② 消防団活動費負担金の新設

- ・各部に対して、5万円＋団員数×2,000円の負担金を支給

- ミニデイサービスは、おおむね65歳以上の高齢者を対象に、各地域において健康づくりや介護予防を推進するために開催するもの。
- 同事業は、居住する地域によって開催回数が異なり、**福祉サービスの不均衡が課題**となっていた。
- この課題を解決するため、**担い手のいない地区への人的支援（社協生活支援コーディネーター）のほか、運営費の増額、福祉バスの無料利用回数の増加等**を実施。その結果、令和7年度は、令和5年度比約2.2倍の144回のミニデイサービスが開催される見込み。

■ 開催地区・回数の推移



- いきいきお茶のみ会は、高齢者支援のためにタブレットやデジタルで稼いだ「高齢者支援等かせぐ基金」を活用した事業。
- 地域にお住まいの高齢者をはじめとする町民の皆さまの「通いの場・集いの場」となる「いきいきお茶のみ会」の立ち上げと活動を応援。**立ち上げ準備補助金や活動支援補助金、福祉バス無料貸出などの支援。**
- 令和6年度には、「サロンdeいりまる」「いきいきサロンさらぬま」、令和7年度には、「シブヤ アガラッシャイ」の開設を支援した。



▲令和7年9月に開設された「シブヤアガラッシャイ」のオープン式典の様子



▲「海味いってみっぺ」の昼食提供



▲「いきいきサロンさらぬま」での健康マージャン

■ 支援内容

- 立ち上げ準備補助金（新設） 初年度100万円 2年目50万円
- 活動支援補助金（拡充） 月額1万円 → 月額3万円

■ いきいきお茶飲み会一覧

名称	活動内容
海味いってみっぺ	昼食提供、レクリエーション、健康講話 等
上間沢さわやかサロン	いきいき百歳体操、男の料理教室、蕎麦打ち 等
綱取いきいきクラブ	いきいき百歳体操、ものづくり、料理教室 等
笑う部え	100円コーヒー提供、ケーキ提供、ワークショップ
いきいきサロンさらぬま	卓球、麻雀、囲碁・将棋、カラオケ 等
サロンdeいりまる	いきいき百歳体操、料理教室、カラオケ居酒屋 等
シブヤアガラッシャイ	お茶のみ、イベント

- 「役場は総合サービス業であるべき、町民を笑顔にする」という考えのもと、西川町職員として求められる「目指すべき職員像」を設定。
- 職員のライフスタイルに合わせた働き方ができるよう**柔軟な人事制度を構築**しているほか、**職場環境の改善や職員の待遇改善**に向けた取り組みを積極的に行っている。
- また、人材確保に向けては、育児や介護等による**退職した者を選考により再び採用する「カムバック採用制度」も導入**している。

目指す将来像

- ① 公務員としての高い倫理観や使命感、深い郷土愛を持ち、町民に信頼される職員
- ② 何事にも積極的に取り組むことができる職員
- ③ 財源確保と目的達成を意識して事業遂行できる職員
- ④ 情報共有やまとめる力のある職員
- ⑤ 地域内外の人を大切にし、対話を通じて共感を呼べる（巻き込める）職員
- ⑥ 明るく大きな声であいさつをする職員

■ 職場環境の改善に向けた取り組み

- 職員 1 人につき 1 台のノートパソコンを配備（R5年度）
- Microsoft365導入（R5年度）
- 全庁フリーアドレス化（R6年度）
- テレワークやフレックス勤務、時短勤務等の導入（R5～6年度）
- 年末年始を休みやすくするため、仕事納め・始め式を前後倒し（R6年度）
- ハラスメント等の外部相談窓口設置（R7年度）

■ 職員の待遇改善に向けた取り組み

- 業務成績に応じた勤勉手当のプラス支給（R6年度）
- 夏季特別休暇の日数増加と取得期間の拡大（R7年度）
- 結婚休暇の取得期間の柔軟化（R7年度）
- 健康診断 2 次検査の特別休暇化（R7年度）

■ 人材確保に向けた取り組み

- カムバック採用（退職者を再び採用する制度）の導入（R7年度）

■ 年代別ワークショップ

時 間	項 目	内 容
19:00~19:25	ワークショップ①「現在の悩み」(25分)	①自己紹介 (5分) ②個人ワーク (5分) ③グループ内での共有 (15分)
19:25~19:45	ワークショップ②「将来への要望」(20分)	①個人ワーク (5分) ②グループ内での共有 (15分)
19:45~19:50	休 憩 (5分)	
19:50~20:10	発 表 (20分)	各グループ2分で発表

付箋の色分け

現在の悩み

将来への要望